

第71回役員会 議事要録

日 時：平成27年8月28日(金) 14:00～15:00

会 場：大学本館 E-703会議室

出席者：石原理事長、近藤副理事長、利島理事、片山理事、梶原理事、松尾理事、江本理事
(オブザーバー) 中野(昌)監事、中野(利)監事、漆原副学長、柳井副学長

報 告

- 1 平成26年度法人評価委員会の評価結果について
- 2 教員の採用について
- 3 平成27年度施設整備の進捗状況等について
- 4 海外インターンシップの実施について
- 5 NHK「発見！COOL KITAKYU！」の公開収録について

報告1 平成26年度法人評価委員会の評価結果について

<質疑応答>

- 全体評価の管理運営の項目で、基金等の目的を明確にするところがあるが、個別の項目を見てみると基金は計画を立てており、他の項目でも指摘はされておらず、矛盾している。
- 法人評価委員会で目的積立金の使い方について議論があり、目的積立金という形にしているが見かけ上、不足した部分を補う形になっている。目的積立金は、本来、翌年度自由に使えるはずであり、本学からきちんと説明したつもりであるが、理解いただけないところであった。公立大学と私立大学、国立大学では違いがあるが、評価委員会では十分に理解していただけなかったのではないかと考えている。
- 大学としては、意見はあったが、目的積立金は自由に使えるお金だとの認識で、この意見を踏まえることはないか。
- そうである。
- 国立大学は会計検査院から、目的積立金は予算の充当先を明確にしたほうが良いという指摘を受け、その方向で検討しているようである。
- 定員充足率について、特に大学院が低い。
- 定員充足率については従前からの指摘事項であったが、これは本学だけではなく、すべての大学が考えなければならないことである。国立大学は、定員削減と留学生の増加で対応している。学生たちは大学院進学に対し、以前ほどの魅力は感じていない。一方、国際環境工学部では、6年間で一貫と考えており、約半数の学生が学部から院に進学している。博士後期課程に関しては難しい部分もあり、卒業後の就職の確保が難しい。その部分が課題である。海外からの留学生や社会人で学び直したい方も含めて、充足率については考えていきたい。第3期中期計画の中で見直す必要があり、大学院改善委員会で検討しているが、希望者に波があり、就職状況等で大きく変わってくる。
- 文系は高学歴になればなるほど就職状況が悪くなる。社会人を取り込むというのはわかるが、大学院に来る必要性がどうかという問題がある。
- ポストも問題もある。
- 助手のような制度を作る動きもある。
- 助手は基本的に任期制である。常勤のポストは難しい。ライフプランとの兼ね合いでネックになる。ポストについても、複数のポストを渡り歩いている人もいる。
- 研究者養成として裾野を広げる事はよいが、その一方でトップ層以外の問題がある。
- 文系の学部によっては、ほとんど院に進学しないところもある。
- 教職課程の大学院は、現場にいる教員の再教育機関となっている。

報告2 教員の採用について

<質疑応答>なし

報告3 平成27年度施設整備の進捗状況等について

<質疑応答>

- 4号館の耐震工事は、授業が始まるまでに工事の音がしないようになるか。
- 授業は10月から開始となるため、それまでに音の出る工事は終了する予定である。10月以降はほぼ音が出ない。
- 駐車場のスペースの一部を封鎖して工事を行うという事であるが、代替のスペースは用意するか。
- 駐車場のスペースには余裕があるので、問題ない。

報告4 海外インターンシップの実施について

<質疑応答>

- インターンシップに行く学生は昨年度より減少しているか。
- 少し減少している。元々インターンシップを希望していた学生が昨年度希望通り行くことができたため、その分今年度が減少している。
- 8月4日に出発式を行った。海外留学する学生含め、130名を超える学生が参加した。

報告5 NHK「発見！COOL KITAKYU！」の公開収録について

<質疑応答>なし

- 今回の企画は、NHKから打診があったのか。
- NHKから打診があった企画である。それに70周年の冠を付している。
- NHKとは初めての企画である。北九州放送局長も地元出身で思いがあり、情報発信に是非協力したいとのことであった。可能であれば、今回の様子も大学のPRに活用していければと考えている。